

FURE 相双地域支援サテライトとは？

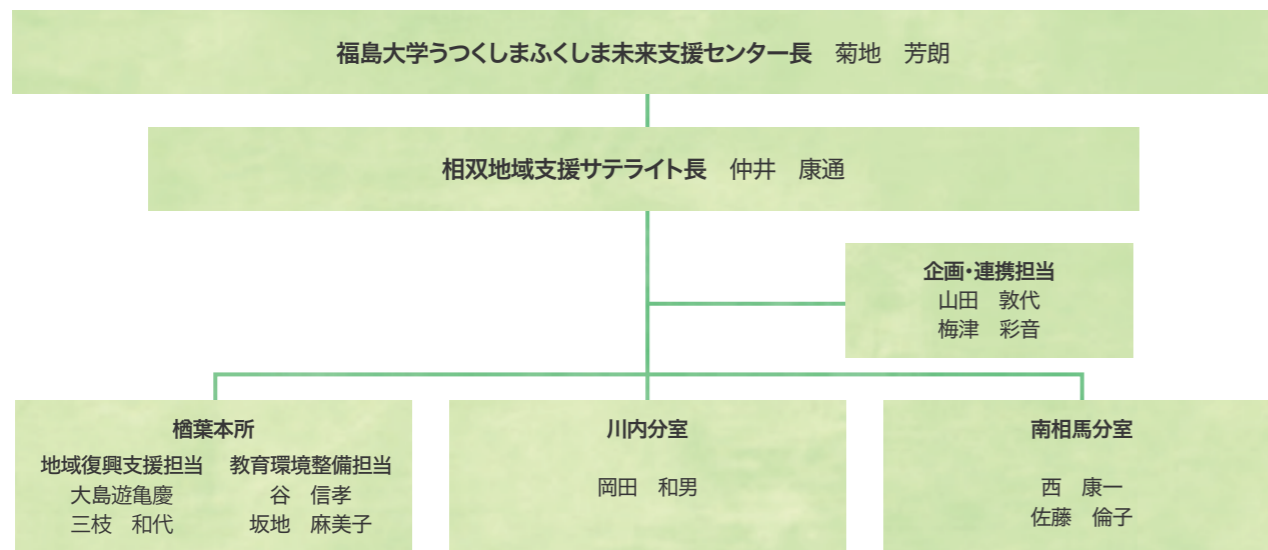
福島大学うつくしまふくしま未来支援センターは平成23年4月、東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故で生じた地域課題を克服するとともに、被災地域の復旧・復興を支援しようと誕生しました。

相双地域支援サテライトは、相双地区と大学をつなぐ現地の拠点として、同24年6月、川内村に開設。同27年8月に本所を楡葉町に移し、これまでの帰還促進支援担当に加えて、教育環境整備担当を新設するとともに、川内村のサテライトは川内分室としました。また、同29年5月には、南相馬分室に新たに職員を配置するなど体制を強化し、被災12市町村を対象とした支援活動を行っています。

沿革

- 平成23年 4月 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター設立
- 平成24年 6月 川内村に「いわき・双葉地域支援サテライト」開設
- 平成27年 8月 同サテライトを楡葉町に移す
川内村のサテライトは「川内分室」と改変
- 平成28年 4月 いわき・双葉地域支援サテライトを「相双地域支援サテライト」と改称
- 平成29年 5月 南相馬市に「南相馬分室」開設

組織図



3か所のサテライトに職員が駐在し、大学の持つノウハウやそれぞれの社会経験を活かして支援活動に取り組んでまいります。新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大している状況を踏まえ、一部の活動を自粛しております。お電話によるご連絡の対応等、支障が生じる場合がございますが、どうぞご理解いただきますようお願いいたします。

発行/福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)
相双地域支援サテライト (企画・連携担当)
福島市金谷川1 TEL:024-504-2834 (楡葉本所) TEL:0240-23-6675
(川内分室) TEL:0240-25-8995 (南相馬分室) TEL:0244-24-2563

所在地

企画・連携担当

〒960-1296
福島県福島市金谷川1
(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター内)



楡葉本所

〒979-0604
福島県双葉郡楡葉町
下小橋麦入31
(楡葉まなび館内)



川内分室

〒979-1292
福島県双葉郡川内村上川内
早渡11-24(川内村役場内)



南相馬分室

〒975-0004
福島県南相馬市原町区
旭町1-8
(みなみそま復興大学内)



25

2020. 春の特別号

「相双の風」は、相双地域の今と、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)相双地域支援サテライトの地域復興に向けた取組みを紹介するニュースレターです。相双地域支援サテライトは被災地域と福島大学をつなぐ現地拠点として、地域再生を目指す支援活動を行っています。



写真提供: (一社)とみおかプラス <https://tomioka-plus.or.jp/>

TOPICS | トピックス

ふたたび笑顔のをせて~つながるふたば JR常磐線9年ぶりに全線再開

2020年3月14日、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の影響で不通となっていたJR常磐線は、富岡-浪江駅間(20.8キロ)の運行を再開しました。これにより約9年ぶりに全線で運転再開。

また、イベント開催時のみ列車が停車する臨時駅だった「Jヴィレッジ駅」は常設駅となりました。東京都から福島県沿岸部を經由し宮城県とを結ぶJR常磐線がつながったことで、周辺の住民の利便性の向上や首都圏などからの訪問者増加が見込まれます。多くの笑顔に乗せて電車が駆け抜ける風景が、復興の後押しとなることは、みんなの願い。

おかえり、常磐線! はしれ、はしれ、常磐線!



常磐線運行再開の流れ

- 2011年
 - 3月11日 東日本大震災と東京電力福島第一原発事故が発生。全線で運行を停止
 - 3~10月 日暮里-広野で順次運行再開
- 2014年
 - 6月1日 広野-竜田で運行再開
- 2016年
 - 7月12日 小高駅を含む南相馬市小高区で避難指示解除。小高一原ノ町で運行再開
- 2017年
 - 3月31日 浪江駅を含む浪江町の一部で避難指示が解除
 - 4月1日 浪江-小高で運行再開
 - 10月21日 竜田-富岡で運行再開
- 2020年
 - 3月4日 双葉駅など双葉町の一部で避難指示が解除
 - 3月5日 大野町など大熊町の一部で避難指示が解除
 - 3月10日 夜の森駅など富岡町の一部で避難指示が解除
 - 3月14日 富岡-浪江で運行再開し、全線再開



<https://ifs.fure.fukushima-u.ac.jp/>

次回発行は2020年7月頃の発行を予定しております



被災地域の復興に向け、一方的な支援ではなく、地域に根差した支援と一緒に取組んでいきたい！
地域の皆さんが主体となって取組みを進める中で、不足している部分をサポートしていくことが私たちサテライトの役割であると考えています。



01 地域復興支援

令和2年度実施予定の主な事業

- 1 被災市町村が抱える課題の把握
- 2 被災市町村が抱える課題の解決に向けての支援
- 3 役場中堅職員による意見交換会の開催
- 4 双葉八町村連携事業の実施
- 5 「ふたばの交流・関係人口拡大を考える会」の開催
- 6 「そうそう花プロジェクト」の推進
- 7 地域コミュニティ形成支援
- 8 役場等との連携業務
- 9 福島大学・福島県等との連携業務

PICK UP! 「そうそう花プロジェクト」の推進

誰もが楽しくかわれる「花」をきっかけとして、地域に帰還した高齢者の生きがいづくりと地域コミュニティ形成の支援に取り組んでいます。

富岡町の公園花壇を活動の軸とし、随時、「花」関連のワークショップ等を開催することにより参加者の輪を広げ、親睦を図っています。昨年度「全国花のまちづくりコンクール」に応募し若葉賞を受賞しましたが、これまでの取組みを通して、参加者の意気込みはますます高まっています。



▲公園花壇の整備



▲フラワーワークショップ

PICK UP! 「ふたばの交流・関係人口拡大を考える会」の開催

双葉郡各町村や関係団体の復興・企画担当者をメンバーとした「ふたばの交流・関係人口拡大を考える会」を、福島県ふたば復興事務所と共催で開催しています。

昨年度は関係人口の拡大にかかる情報交換や外部講師による先進事例紹介を通して、各町村における新たな施策形成を支援してきました。今年度は昨年度収集した知見等を活かし、町村の関係人口拡大に向けた取組みを支援するための施策を提案する予定です。



▲特別講演会

PICK UP! 地域コミュニティ形成支援

昨年度、(一社)ならはみらいからの依頼により、「版画家竹林嘉子氏による版画ワークショップ・トークショー」や「クリスマスイルミネーション点火式コンサート」をコーディネートしました。今年度も被災市町村のこのような取組みに関わっていきたくと考えています。



▲クリスマスイルミネーション点火式コンサート

02 教育環境整備

令和2年度実施予定の主な事業

- 1 教育現場が抱える課題の把握
- 2 学習ワークショップの開催
- 3 子どもや保護者を対象としたセミナー等の開催
- 4 学校間の交流の場の設定
- 5 教育委員会等との連携
- 6 福島大学・福島県等との連携業務

PICK UP! 学習ワークショップの開催

サテライトでは平成28年度より被災市町村の子どもたちを対象に、ものをつくる楽しさ・学ぶことの楽しさを知ってもらうための科学実験教室や体力向上を目指した身体表現のワークショップを開催してきました。

再開したばかりの小・中学校の子どもたちはまだ少なく、少人数の良さもある一方で、活性化されていないなどの面もあります。各校とも地域に開かれた学校をテーマとし地域全体で育てるコンセプトを掲げられていますので、サテライトでも協力し地元住民の方と一緒に学べるようなワークショップを今年度も企画・提案していきます。



▲体力向上プログラム



▲白熱灯、蛍光灯、LEDの違いを学ぶ



▲子どもたちを対象にした料理教室



▲英語ワークショップ

03 産業振興支援

令和2年度実施予定の主な事業

- 1 雇用確保に向けた地域産業振興支援
- 2 農業再生に向けての支援

PICK UP! 農業再生に向けての支援

農家へのヒヤリングを基に、現場と専門家のつなぎ役としての活動と大学等の研究補助等を通して被災地域の農業再生に向けた取組みを支援しています。

今年度も、細やかな農家への訪問における聴き取りを通して現状を把握するとともに、福島大学食農学類との連携をさらに深めてその知見を活用し、営農再開を支援していきます。



▲放射能専門家と農家の座談会

04 情報発信

令和2年度実施予定の主な事業

- 1 サテライト広報誌の発行
- 2 関係市町村等外部への情報提供

PICK UP! サテライト広報誌の発行

相双地域全体を見ると、帰還を開始して間もない町村、これから帰還を開始する町村もあれば、早期に帰還して将来のまちづくりについて考えるフェーズに入っている町村もあります。

今年度も引き続きサテライト広報誌「相双の風」を発行していきますが、各町村での新たな取組みを発信するなど、皆さまにより役に立つ情報をお届けできるよう工夫していきたくと思います。



▲広報誌「相双の風」